

早稲田大学創造理工学部建築学科 製図・演習系科目紹介

早稲田大学の建築教育の伝統として、デザインを重視していることがあります。その中心には「設計製図」と「設計演習」があります。設計製図は「住宅」や「美術館」などの通常の設計課題で、設計演習は「光の箱」や「植物的建築」などの、特に感性を鍛える課題に取り組みます。同時にこれらの課題には並行して学習している専門領域を束ねる役割も期待されており、カリキュラムの芯として学部4年間を貫いています。

早稲田では専門領域の学習も1年生から開始します。1年生の必修科目としてすべての教員の専門分野と建築との関わり、あるいは実社会との関わりを学ぶオムニバス形式の「建築と建築工学」や「建築・都市と環境」、「建築と社会」を配し、建築分野の全体像を把握できるようにしています。1年生から少しずつ専門領域に触れさせ、その統合化の作業として設計製図に取り組む。このプロセスは内容を深め、レベルを上げながら各学年で繰り返されます。学部卒業前に取り組む卒業計画は、専門分野が異なる学生3名による共同設計であり、このプロセスの集大成ということになります。

学生は学部4年に進学すると、建築芸術分野（建築史学・歴史工学、建築意匠・計画学、建築都市計画学）と建築工学分野（建築環境工学、建築構造学、建築生産学）の各研究室に分かれて卒業論文に取り組み専門性を高めます。卒業計画ではこの専門性を超えて共同設計を行います。ですから3名の学生はそれぞれ異なった専門分野の研究室に属していることを条件としています。これは学問上の知識を統合化することだけでなく、異なった分野の人材とコミュニケーションを取りながら進めるという訓練も兼ねています。これは全卒業計画、全卒業生がプレゼンテーションを行い、内容を教員に説明して審査を受けるという評価方針にもつながっています。

(引用:<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/curriculum/>)

早稲田大学建築学科ホームページ

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/>

早稲田大学建築学科 授業紹介ページ

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson>

学部1年の授業

建築表現Ⅰ(前期)

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson02>

建築の世界に入る第一歩としてはまず、立体物を正確に把握する能力が重要である。

ここでは、早稲田大学西早稲田キャンパスの観察とデッサン等を通じ、早稲田建築の伝統にふれると共に、都市的なスケールの観察を通じ、地域に固有の歴史風土を理解する視点を涵養する。また、内外の代表的な建築物のトレースを通じ、平面図、立面図、投影図等の作図方法、CADを用いた製図方法の基礎について学ぶ。...

建築表現Ⅱ(後期)

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson02>

図面を写すこと、図面から模型をつくること。この基本的な行為の深い習得を基本とする。

さらに高度な図面の読解を通して、二次元と三次元の情報を結びつけて想像できる、立体把握能力を培うことを授業の目標とする。

そのために幅広い国際性と「早稲田建築」のエッセンスをもった先達の二人の建築家による作品のトレースを中心に授業を行っていく。...

設計演習A(後期)

(参考)

<https://www.dakedo-dakara2021.com/>

建築意匠のみならず、建築史・都市設計・ランドスケープの視点から、建築・都市を見る(診る・観る)、計る(測る・図る)、記述することの演習をおこなう。

各教員ごとのスタジオ(グループ)に分かれ、即日課題を原則とする少人数のデザイン指導を行い、3週ごとのローテーションで各スタジオを巡る。...

学部1年のその他の授業の紹介はこちら

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson02>

学部 2 年の授業

建築表現Ⅲ(前期)

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson03>

2 年次後期配当の「設計製図Ⅰ」の住居設計に備え、1 年生で取得した基礎的な図面の描法を、さらに発展させることが狙いである。基本的な図面の描き方が習得されていることを前提として進められる授業であるから、自信のない者は各自で復習を行うこと。 …

設計製図Ⅰ(後期)

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson03>

設計製図Ⅰは、本格的な建築設計の導入部分として位置づけられる科目である。短期課題とは異なり、半期を通して段階的に進められる。生活と生活空間から都市空間への拡張、分析、評価を通じて価値観の多様性に触れ、テーマとする建築を実現する。 …

設計演習 B/C(前期/後期) (参考)

<https://sekkeiensehbc2020.wordpress.com/>

建築計画・設計は、たとえばこれまで対象となる施設について歴史的にどのようなデザインがなされてきたのか、また規範的な計画学的な知見からの抑えや、施設に関する数量的な値など種々のデータを目的に向かって統一すると同時に、「ふつう」、あるいは「一般的には」にもとづく形・空間・人間生活に対する固着した判断、反応から解放される必要がある。 …

学部 2 年のその他の授業の紹介はこちら

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson03>

学部 3 年の授業

設計製図Ⅱ(前期)

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson04>

設計製図Ⅱは、建築学各分野で学習中の知識を統合する設計製図の中核となる。題内容は、製図Ⅰをふまえ、より社会性を持つものとなり、利用層も広範となる。また機能も複雑なものに取り組む。ここでは社会的な視野と、地域に固有の歴史風土を理解する視点が必要となる。 …

設計製図Ⅲa(後期)

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson04>

設計製図Ⅲaは、建築学各分野で学んだ知識を統合する設計製図教育の中核をなす。主に計画、デザインを志す学生を対象とする選択必修科目である。(設計製図Ⅲb/工学系参照) 課題は、より広範な社会的な視点、文化的な状況、都市計画的なアプローチを持つものとなり、さらに高度になる。 …

設計製図Ⅲb(後期)

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson04>

この科目は、意匠に加えて構造・環境・設備・生産の各分野に関する工学的な事項を総合的に検討した上で、各自の設計課題をまとめることに重点を置いている。すなわち、基本的な建築計画を行うとともに、その構造設計、環境・設備設計並びに建築の詳細部位・納まりなどの設計を実施することによって、建築物における各種の工夫や仕組みを理解しながら図面として仕上げる。 …

建築構造製図(前期)

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson04>

既存の中規模ラーメン構造について、鉄筋コンクリート構造および鉄骨構造の構造図を学ぶことにより、建築・都市のデザインに関連する構造に関する知識を身につけ、創造的な空間を提案する設計全体の中での構造設計の位置づけを理解し、設計の成果が正確に伝わる製図方法を学ぶ。授業時間中に平行定規を用いて A2 版ケント紙に製図を行うこととする。 …

環境設備製図(後期)

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson04>

建築設備は、建築の性能・機能を決める重要な要因で、その設計・施工の巧拙が、できあがった建築の質や使い勝手に影響するところはきわめて大きい。ダクト・配管、各種機器等の配置は設備の機能を十分に発揮させる上で賢明な設計が必要で、そのためには、建築計画、構造等と、これらの設備的要素をどのように調整するか、合理的に考えて行く必要がある。 …

設計演習 D/E(前期/後期) (参考)

<https://enshu2020.wordpress.com/>

設計演習 D では、家具スケールから建築、都市スケールにいたる、主としてアイデアや着想を重視したデザイン演習である。対人間、対自然、対都市環境的なコンセプト・ワークを中心とし全 5 課題程度の短期設計演習課題となっている。設計演習 E では設計演習 D を発展させ、より複合した機能、建築と他の建築、あるいは建築と都市の関係を視野にいたれたアイデアを問う。 …

学部 3 年のその他の授業の紹介はこちら

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson04>

(参考動画 : 2019 年設計製図Ⅲa 第二課題公開講評会 <https://wcms.waseda.jp/em/5f14e68906720>)

学部 4 年の授業

卒業計画

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson05>

卒業計画は、建築学各分野で学習した知識を統合する設計製図の最終年度科目であり、同時にその後のさらに専門に分化して行われる大学院での学習や実社会での実践のための初歩として位置づけられる。

学部を通して習得した様々な知識や技能をもとにして、各自がその後に引き続き研究または実践をしたいと考える建築・都市のテーマに関し、これを具体的な設計・計画の形へ統合し、提案するものである。…

卒業論文

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson05>

学部の最終学年には、大学 4 年間で学んだ実績を集大成しながら、自らの興味を有するテーマに対して深く研究し、成果を論文として取りまとめてゆく。卒業論文は、各研究室に分かれて指導教員の指導を受け、フィールドワークや資料収集、実験および解析などを通して建築と都市が抱える諸問題を解決する総合的な能力を養っていく。自ら課題を発見し、テーマを設定し、計画的に作業を遂行していく能力を培っていく。…

設計演習 F/G(前期/後期)

(参考)

<https://www.f.waseda.jp/watanabetaishi/design%20of%20field.html>

学部四年生と大学院生を対象とした演習科目である。複数の学年が同じ設計スタジオに会して行われるのがこの講座の特質である。

各回の提出物に加えて、演習本来の目的として出来るだけ授業時間内にスタジオでのスケッチ、作図、模型製作などの実習作業を求めている。…

学部 4 年のその他の授業の紹介はこちら

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wa/ja/lesson05>

修士 1, 2 年(5, 6 年)の授業

修士計画

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wp/lesson05/#s5>

修士計画は建築芸術分野で専門的に学習した建築・都市デザインの芸術性および歴史性に関する深い知識を統合する設計製図の集大成の科目である。

大学院を通して習得した様々な知識や技術をもとにして、各自がその後に引き続いて研究または実践したいと考える建築・都市のテーマに関し、これを具体的な設計・計画の形に統合し、提案するものである。…

修士論文

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wp/lesson05/#s5>

修士課程の最終年度においては、各研究指導分野に応じた修士論文の研究を行なう。

修士課程においては専門的深化とともに、建築や都市に関する広い視野と高い見識を持った技術と教養を身につけることが目標とされ、互いに関連しあう異分野の学生との共同作業を通して論文がとりまとめられることも少なくない。…

修士 1, 2 年(5, 6 年)のその他の授業の紹介はこちら

<http://www.arch.waseda.ac.jp/wp/lesson05/#s5>